

# 令和6年度 幼保小連携推進地区事業 善部地区 活動報告

活動テーマ

「育ちと学びを豊かにつなごう」  
～園児と児童の豊かなかかわりと、なめらかな接続をめざして～

横浜三輪幼稚園

善部保育園

横浜市立善部小学校

## 活動テーマについて

# 「育ちと学びを豊かにつなごう」

～園児と児童の豊かなかかわりと、なめらかな接続をめざして～

### 【推進テーマについて】

コロナ禍であった連携推進1年目から、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの実施の仕方を模索してきた。3年目の本年は、幼稚園や保育園との連携をさらに深め、園のよさや学校の特徴を生かした架け橋期のカリキュラムマネジメントを行いたいと考え、推進テーマを設定した。

# 推進内容

- 4月11日～ 保育園職員が1年生に読み聞かせの会(全3回)  
4月26日 第1回推進委員会  
5月14日 園職員が小学校の授業を参観  
5月24日 小職員が幼稚園の朝の過ごし方を参観  
6月21日 小職員が保育園の朝の過ごし方を参観  
6月26日 **保育園児と1年生が公園で交流(出会い)**  
接続期研修会スタートカリキュラム公開授業研究(横浜市立初音ヶ丘小学校)に参加  
9月 6日 **幼稚園児と1年生が公園で交流(出会い)**  
9月20日 第2回推進委員会  
9月27日 **1年生が保育園と幼稚園を訪問**  
保育園児が小学校の校庭で遊びたい思いを伝える  
10月11日 保育園が小学校の校庭で運動会練習(1年生は応援)  
10月12日 小職員が保育園運動会を参観  
10月19日 園職員が小学校運動会参観  
10月26日 小職員が幼稚園運動会を参観  
10月31日 **保育園児が小学校校庭でサッカー遊び**  
11月 5日 **1年生が園児をどんぐりまつりに招待**  
**保育園児・幼稚園児ともに帰園後、1年生のまねっこあそびをした**  
12月 3日 健やか子育て講演会参加  
1月20日 第3回推進委員会  
2月21日 **学校案内**

※太字は児童と園児の交流

# 今年度の重点課題

- ・2年間の経験を活かし、幼保小の職員間の連携をさらに進めるため、推進委員会を設定し、園児と児童の学び合いをより効果的に計画する。
- ・児童園児交流を企画し、園児は小学校への興味や関心が高まるよう、児童は相手意識をもった活動や計画づくりができるようにする。
- ・交流の成果と課題を明確にする。さらによいカリキュラム作成に努める。

# 連携推進事業の実際①

## ○第1回推進委員会(4月26日(金)15時半～)

- ・推進委員自己紹介と予算案説明
- ・4月11日～13日の園長先生読み聞かせのふりかえり
- ・令和6年度の幼保小交流の年間計画調整と確認
- ・昨年度の引継ぎ事項確認

## ○第2回推進委員会(9月20日(金)15時半～)

- ・年間計画の確認と調整
- ・9月までの活動ふりかえりと購入希望品について
- ・児童園児交流(公園での出会い)のふりかえり
- ・**児童園児交流(1年生が保育園と幼稚園に訪問)の確認**
- ・**架け橋期の子どもへの対応や支援について相談や共通理解→図工の授業改善 (PIIで紹介)**
- ・今後の活動の確認

## ○第3回推進委員会(1月20日(月)15時～)

- ・幼保小教育交流報告会の報告書作成
- ・令和6年度の活動のふりかえり
- ・令和7年度への引継ぎについて

# 連携推進事業の実際② 第1回児童園児交流(善部公園)

子どもたちがよく遊ぶ善部公園で、児童と園児が偶然出会い、一緒に遊ぶ。  
園児は小学校教諭とも出会い、児童は園の先生に出会う。

- 6月26日(水)善部保育園年長組と1年生の出会い
- ・公園での出会い
  - ・虫取り



- ・園児に優しく話しかける姿



- 9月6日(金)三輪幼稚園年長組と1年生の出会い
- ・虫取り
  - ・シャボン玉



- ・公園探検



# 連携推進事業の実際③ 第2回児童園児交流（園訪問）

公園での出会いから、一緒に遊びたいと思いを広げた1年生が、9月に保育園と幼稚園を訪問した。自分たちが年長のころを考え、喜んでもらえるような遊びを企画した。



実行委員のがんばり



仲を深めるために工夫した  
じゃんけん列車



幼稚園の園児に  
お箸の持ち方を伝える児童



じゃんけん列車で場を  
盛り上げる姿



ゲームでグループを作り  
自己紹介をし合う



園児と次回の交流の  
約束をする児童

# 連携推進事業の実際④ 第3回児童園児交流 (生活科どんぐりまつり招待)

生活科『あきとともにだち』で制作した、木の实のおもちゃ。年長さんをよんで、一緒に遊びたいという思いがふくらんだ。今までの交流で、仲良くなった園児の名前や顔を思いうかべながらどんぐりまつりを開催することができた。相手意識をもった主体的な学びにつながった。



こうしたら  
おもしろ  
いかな。



これはこ  
うしてあ  
そびます。





## 連携推進事業の実際⑤



## 横浜三輪幼稚園

昨年度の交流を振り返ると「楽しかった」でおわってしまったため、交流前後を工夫することでより充実した交流になるのではないかという思いがあった。

そこで、今年度は事前に小学生に聞いてみたいことを話し合っって質問し、その答えをまとめたものや、秋祭りでのゲームや作品の写真を保育室に掲示した。すると、小学生の作品を真似して作ってみたり、小学校の話題を口にするが増えたり、小学校をより身近に感じているように思った。

また、学校＝勉強（座学）をイメージする子が多かったが、校外へ行ったり、ゲーム・工作をしたり、幼稚園と似ている活動があること知れたのは、新たな発見だったようだ。

## 連携推進事業の実際⑥

## 善部保育園



運動会を小学校の校庭で行うにあたり“校庭でサッカーやってみたい”という気持ちが沸々と湧いてきた子どもたち。1年生とも対決してみたい！と1年生に相談しに行き、夢が実現した。帰り道「明日もまた遊びたい！」というほど小学生との交流を楽しんでいた。



小学校に招待された秋まつり。『どんぐり迷路』が楽しくて、園でも真似して作る姿があった。遊び方を教えてもらったり一緒に楽しむ中で、1年生の優しい姿に安心感を抱き、小学校への期待や興味が広がったように思う。

# 連携推進事業の実際⑦

# 善部小学校

架け橋期の子どもへの対応や支援を考慮した図画工作科の授業実践  
～第2回推進委員会の情報交換より～

1年生図画工作科(4月)  
『どんどんかくのはたのしいな』  
T「すきなものなあに  
どんどんかいていいよ」

C「やだ」  
C2「ない」  
C3「…」  
⇒ すきなもの描いてくれないので、  
4月は作品がない子がいた。  
題字などを書いてもらった。

幼保小推進委員会で小教諭から保育士・幼教諭に相談  
→園では、  
個人作品もあるが集団制作がある。  
描きたいときに描けるように、場を常設している。  
「ねばならない」はなく「やってみたい」を重要視。



1年生図画工作科年間カリの見直し  
『ぺったんコロコロ』→『うつしたかたちから』

集団制作単元

個人作品単元



←全員、手を色まみれにしながら学習を楽しむことができた。作品を一週間掲示した。

→掲示作品を参考に、いつも取り掛かりに時間かかる児童も、すぐにデザイン作りを始めた。



# 成果と課題 来年度に向けて

## 成果

- ・2年間の経験を活かし、幼保小職員間の連携がスムーズであったため、園児と児童の学び合いが更に効果的に計画できた。3年目は交流も増えた。(P3推進内容)
- ・児童は、相手意識をもった活動や計画づくりができるようになった。交流中の園児にかける言葉が、とても優しい話し方で、園児が安心して活動することができた。(事業の実際④)
- ・園児は、学校=勉強(座学)をイメージする子が多かったが、校外へ行ったり、ゲーム・工作をしたり、幼稚園と似ている活動があることが知れた。(事業の実際⑤)
- ・交流によって、園児は憧れや思いやりの心が芽生えたり、小学校への興味や関心が高まったりする姿がみられた。「小学校に伝えに行こう」という声が出るようになった。(事業の実際⑥)
- ・推進委員会において、それぞれの取り組みや特色のある活動を報告しあうことができた。そのため、保育や教育の改善が見られた。特に小学校では、幼保の活動を取り入れたり、助言をいただいたりすることで、図工科の支援・指導の授業改善が図られた。(事業の実際⑦)
- ・支援が必要な園児が小学校で児童と交流すると、園生活では見ることのできない新たな良い姿が見られた。
- ・園の保護者から、小学校との交流活動があったおかげで、親子ともども入学に向けて安心できたとの話をいただいた。

## 課題

- ・推進事業終了のため、来年度以降の連携がこれまで同様に高い意識の中で行われるか。
- ・3年間の連携で子どもも大人も交流が広がった。しかし、小学校としては1年生以外でも交流が広がるといい。